

「でき iPad2。」Ver2 操作モード設定例(あくまで一例です)

「でき iPad2。」Ver2 は、操作モードがキーボードとマウスがあり、それぞれ更に4種類あります。ここでは、どの操作モードにするかの参考例を記します。本文中の語句で SW1 とは、「でき iPad2。」の1番に挿入したスイッチを意味します。

スイッチの操作がどの程度可能か、あるいは利用するアプリによって、「でき iPad2。」の操作モードを決めます。設定 DIP スイッチはしっかり切替てください。

「でき iPad2。」本体の裏に説明シールが貼ってあります。電池ボックスのフタを開けます。DIP スイッチは1から4まで番号があります。1から2の組み合わせで操作モードを設定します。



スイッチコントロールやスイッチ対応アプリの操作 (DIP スイッチ 3番を上)

スイッチコントロールを利用する際は、iOSの画面で設定/アクセシビリティ/スイッチコントロール/スイッチと進んでアクションを設定します。

1. モード決定の例

- 1-1. スイッチ1個あるいは複数個の操作可能な場合は、**スイッチ4個モード**、長 ON が可能な場合は、1個のスイッチに二通りのアクション設定ができます。ただし、長 ON(長押し)を有効にしますと、スイッチを On したときのアクション発生が、スイッチを OFF にしたときになります。これは iOS の仕様です。
- 1-2. スイッチを任意に数回 On できる場合は **ON の回数モード**、これによってスイッチを4個操作と同じようなことができます。
- 1-3. 振戦(手の震え)がある場合、スイッチの **ON の回数モード**を利用し、1回から4回まですべて同じアクションを設定します。これによって、不随意的にスイッチを数回 ON しても、同じアクションが1回だけの操作ができます。
- 1-4. スイッチ対応アプリ、たとえば Spase/Enter/1/3 のキーで操作するアプリを利用したい場合は、**スイッチアプリモード A**。この場合は、**スイッチコントロールは OFF** で利用します。

1-5. スイッチ対応アプリ、たとえば Spase/h/k/l(エル)のキーで操作するトーキングエイド for iPad や DropTalk を利用したい場合は、**スイッチアプリモード B**。この場合は、**スイッチコントロール**は OFF で利用します。

2. スイッチコントロールやスイッチ対応アプリ各操作モードにおける特徴

2-1. スイッチ4個モード



スイッチ ON で反応しますので、スイッチコントロールのポイントモードで利用の際は、反応が良いです。

スイッチの長押しにも対応しますが、iOS の設定で長押しをオンにすると、スイッチを放して機能するようになります。

これは、iOS の仕様です。

スイッチを SW2 にも接続の場合は3秒間スイッチを長 ON するとトリプル HOME が、5秒間長 ON で iPad を Sleep にし、「でき iPad2。」も Sleep します。SW2 に長押し機能を割り当てる場合は、1.5 秒以下にしてください。

iOS/iPadOS13 のマウス操作は、マウスキーと滞留を併用することで機能します。拡張コネクタを利用したレバーで操作も可能です。

出力キー: SW1: ↓ SW2: ← SW3: ↑ SW4: →

2-2. スイッチ ON 回数モード



ポイントモードでの利用の際は、ほんのわずか遅れを感じます。

1回から4回までの ON は、スイッチコントロールのアクション設定ができます。

出力キー: 1回: Space 2回: Enter 3回: 1 4回: 3

5回からは下記のような機能が設定されております。

5回: スクリーンキーボードの表示・非表示 6回: トリプル HOME (iOS10以降で HOME ボタンのあるiDevice)

9回: iPad や iPhone を Sleep にして「でき iPad2。」も Sleep になります。

スイッチを SW2 にも接続した場合は音楽を容易に楽しむことができます。

1回 ON: 再生・停止 2回 ON: 次の曲 3回 ON: 前の曲 4回 ON: ボリューム下げる 5回 ON: ボリュームを上げる

6回 ON: トリプル HOME (iOS10以降で HOME ボタンのあるiDevice)

9回 ON で iPad や iPhone を Sleep にして「でき iPad2。」も Sleep になります。

スイッチを SW3 にも接続した場合はカメラアプリにおいてシャッター機能となります。

2-3.スイッチスイッチアプリモード A



スイッチコントロールの長押しには対応しておりません。長押し利用の場合は**スイッチ4個モード**をご利用ください。

スイッチを SW2 にも接続した場合は、3秒間スイッチを長 ON すると、トリプル HOME が、5秒間長 ON で iPad を Sleep にし、「でき iPad2。」も Sleep します。

出力キー: SW1:Space SW2:Enter SW3:1 SW4:3

2-4.スイッチスイッチアプリモード B



スイッチコントロールの長押しには対応しておりません。長押し利用の場合は**スイッチ4個モード**をご利用ください。

スイッチを SW2 にも接続した場合は、3秒間スイッチを長 ON すると、トリプル HOME が、5秒間長 ON で iPad を Sleep にし、「でき iPad2。」も Sleep します。

出力キー: SW1:Space SW2:h SW3:k SW4:l(エル)

注)スイッチアプリモード A または B はスイッチコントロールを ON にした場合でも、スイッチコントロールのアクションの設定が可能です。ただし、出力されるキーが同じの場合は、すでに使用済みとなります。

マウスポインターの操作 (DIP スイッチ3番を下)

マウスポインターを操作する際は、iOSの画面で設定/アクセシビリティ/タッチ/と進んで、AssistivrTouch を“オン”に設定します。iOS/iPadOS 側の設定は、マニュアルの” 8-2. iOS/iPadOS 側の設定”をご覧ください。

マウスモードの際、「でき iPad2。」の LED は赤点灯となります。(ペアリング動作の場合は緑点滅)

3. スマウスポインター操作における各モードの特徴



3-1. マススイッチ On の回数簡易モード (マニュアルの 8-3-1-1 の表を参照)

スイッチ On の回数をできるだけ少なくして利用する場合にお試してください。

AssistivrTouch のメニューボタンを直接選択したり、選択も滞留コントロールを併用しますと、2回までのスイッチ On で利用できます。

また、もう少しスイッチ On の回数が可能な場合は、ボタンに機能を割り当てての利用ができます。

「でき iPad2。」の2番にスイッチを挿入すると、下記のボタンモードとなります。

3-2. ボタンモード(マニュアルの 8-3-1-2 の表を参照)

スイッチ On の簡易回数モードと On の回数モードにおいて、
外部スイッチを「でき iPad2。」の2番に挿入するとマニュアルの



8-3-1-2 の表のように、マウスポインターの移動が不要でアクションだけで利用する場合に適しております。

たとえば、本のページをめくったり戻ったりが少ないスイッチ操作で可能になります。この場合、滞留コントロールの併用も試して見ると良いでしょう。

3-3. スイッチ On の回数モード(マニュアルの 8-3-2 の表を参照)

スイッチ On の回数を利用して、より多くのアクションを利用したい場合にお試ください。

AssistivrTouch のポインター移動で低速や反対方向への機能が利用できます。

また、滞留コントロールを併用しますと、ホットコーナー機能も利用できます。スイッチ On の回数でホットコーナーにポインターが瞬時に移動します。移動直後はスイッチ2回 On で停止させます。

ドラッグ機能もあります。

スクリーンキーボード表示のON/OFFもできます。iDeviceを Sleep にもできます。

「でき iPad2。」の2番にスイッチを挿入すると、上記のボタンモードとなります。

3-4. スイッチの長短 On モード(マニュアルの 8-3-3 の表を参照)

スイッチの長短 On の組み合わせで、より多くのアクションを利用したい場合にお試ください。

短 On の場合は音が鳴りません。AssistivrTouch のポインター移動で低速や反対方向への機能が利用できます。

また、滞留コントロールを併用しますと、ホットコーナー機能も利用できます。スイッチ On の回数でホットコーナーにポインターが瞬時に移動します。コーナーへ移動直後はスイッチ2回短 On あるいは1回長 On で停止させます。

3-5. スイッチ4個モード(マニュアルの 8-3-4 の表を参照)

「でき iPad2。」の4個のジャックにスイッチを4個接続、あるいは、拡張コネクタを利用してレバースイッチなどでポインターを移動させます。スイッチやレバーを短 On するとポインターは移動を開始します。

スイッチやレバーを1回音が鳴るまで On するとポインターは停止します。2回音が鳴るまで ON すると移動速度の変更ができます。

レバースイッチの場合は、斜め方向の On の機能(アクション定義可能)もあります。

ショートカットの例

iOS/iPadOS 標準アプリに“ショートカット”があります。

アイコンとして画面に貼ることもできます。愛ディア次第でいろいろなアクションを作ることができます。その機能もますます進化しております。ぜひご自分で作ってみてください。その参考の一助になればと、ご紹介いたします。

1. AssistiveTouch を ON にする。



2. スイッチコントロールを ON にする。



3. スイッチコントロールと AssistiveTouch を OFF にする。



ボタンモードの例

スイッチ On の簡易回数モードと On の回数モードにおいて、外部スイッチを「でき iPad2。」の2番に挿入するとマニュアルの8-3-1-2の表のように、マウスポインターの移動が不要でアクションだけで利用する場合に適しております。

たとえば、本のページをめくったり戻ったりが少ないスイッチ操作で可能になります。この場合、滞留コントロールの併用も試して見ると良いでしょう。

下図の記事と動画は下記サイトでご覧いただけます。

<https://dekimouse.org/wp/?p=11215>

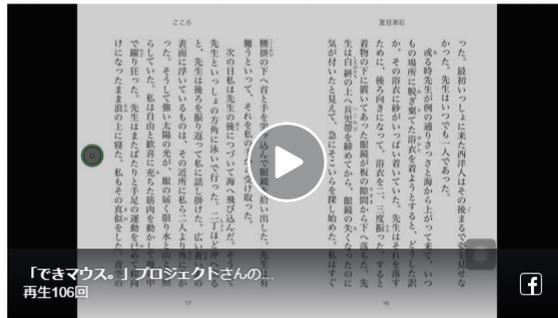
8 ボタンマウスのボタン割当ての例



16
1月

「でき iPad2。」 Ver2のボタンモードと視線入力決定キー

Categories: facebook 「でき iPad2。」 Ver2のボタンモードと視線入力決定キー はコメントを受け付けていません。



最終仕様決定後に、評価メンバーから目からウロコの変ディアが届き、急速取り入れました。「マウスポインターは動かさず、ボタンをカスタマイズして利用したい」とのことでした。
「自分は読書が好きなので、容易にページめくりをしたい」とのことでした。

ポインターを動かすことを大前提として捉えていました。ポインターを回数で動かす例では、スイッチを1回ONするたびにマウスポインターが方向を変えながら移動し、2回ONで停止、停止中に2回ONで左ボタン機能で決定し、同じく停止中にスイッチを3回ONでメニュー表示が一般的な考えです。すでに、3回ONが消費されます。

iOS/iPadOS13のマウス機能は、ボタン1から自由に定義できます。オリジナルジェスチャーや自作ショートカットや個人用オートメーションを定義できます。
「でき iPad2。」のマウスのボタンを3個ではなく、8個にしたことが生きてきました。

この投稿での動画では、外部スイッチ1個で1回ONで本のページをめくり、2回ONでページを戻るをおこなってみました。ボタンに機能割り当てが使えると、変ディアが膨らみますね。

視線入力決定キーとしては、スイッチ長短モードの際に、3番端子でマウスの左ボタン、4番端子でCtrl信号を出すようにしました。
前者は、miyasuku や Heraty Ai、後者はOrohime eyeで利用できるでしょう。

「でき iPad2。」が皆様可愛がっていただけることを願っております。

トップページ



「できマウス。」プロジェクト

<https://dekimouse.org/wp/>

